

## お知らせ

### 令和 4 年度 若手研究助成の募集

本学会では、体育学・スポーツ科学に関する科学的研究を促進し、東京体育学研究のさらなる促進および若手研究者の育成を主旨として、令和 3 年度より若手研究者を対象とした研究助成を再開しております。現在、令和 4 年度若手研究助成を募集しております。

募集要項や応募方法に関する詳細は、東京体育学会ホームページをご参照ください。

[東京体育学会 \(tokyo-taikugakkai.jp\)](http://tokyo-taikugakkai.jp)

#### 【もくじ】

- ・ 令和 4 年度若手研究助成の募集について (1)
- ・ 第 99 回研究会開催報告 (2)
- ・ 東京体育学会第 13 回大会の概要 (4)

## 第99回研究会 報告

令和3年12月3日、東京体育学会が主催する第99回研究会をオンライン形式で開催した。テーマを「2020 東京オリ・パラをふり返って～スポーツの価値を再考する～」に設定し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事のヨーコ ゼッターランド先生にご講演いただいた。

パンデミックにより開催自体の賛否も問われた東京2020オリンピック・パラリンピック大会。本研究会は東京2020大会開催を振り返り、今後のスポーツ界と「社会の中のスポーツ」について考える会となった。

## 開催日時・開催方法

日時：令和3年12月3日（金）16:30～

方法：オンライン（Zoom）形式

テーマ：「2020 東京オリ・パラをふり返って～スポーツの価値を再考する～」

演者：ヨーコ ゼッターランド先生

（日本女子体育大学 准教授、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員 理事）

参加者：50名

## 講演内容

講演全体の軸として、「多様性」や「平等」についてのスポーツ界の変化について、主にご自身が感じ、ご経験されてきたことを例示し、お話しくださった。また、子供たちの「夢」や「目標」、そして「ロールモデル」となるような選手教育、アスリートのメディアトレーニングについても触れられた。近年のSNSの発達により、アスリートに直接様々な声が届いてしまう現状があるが、裏を返せば、アスリートが自分思いを自分の言葉で発信することもできるということである。スポーツの魅力や価値を発信していくためにも、アスリートのメディアトレーニングは重要であると指摘された。

これまではアスリートとしてオリンピックに関わって来られたが、東京2020大会では

東京体育学会 第99回研究会  
2020東京オリ・パラを  
ふり返って  
— スポーツの価値を再考する —  
日時 12月3日(金)  
16:30～  
講師 ヨーコ ゼッターランド  
日本女子体育大学 准教授  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 理事  
Zoomによる  
オンライン開催  
メール会員でない参加希望者は、  
事務局までご連絡ください。  
参加無料  
50名以内参加  
主催 | 東京体育学会(会長:船渡和男、理事長:田中重隆)

東京体育学会 第99回研究会  
2020東京オリ・パラをふり返って  
～スポーツの価値を再考する～  
2021年12月3日 16:30-17:00  
日本女子体育大学 准教授 ヨーコ ゼッターランド  
9270176701500 (顔) 女子バレーボールアメリカ代表

大会組織委員会の理事に就任し、支える側として関わることとなり、改めてスポーツは社会の中の一部であることや、スポーツの持つ可能性を感じたとのこと。東京 2020 大会開催については大変な葛藤があったと語り、2020 東京オリ・パラを振り返った。良かった点として、誰か（アスリートをはじめとする多くの人）が活躍できる「場」をなくさなかったことや、スポーツを通じて様々な社会問題を再考するきっかけとなったことなどを挙げられた。その一方で、組織委の取り組みが対外的に見えづらかったことや、様々な問題に対する対応が後手後手になってしまったことなどを反省点として挙げられた。また今後の課題として、東京 2020 大会に向けて取り組まれてきた活動を「レガシー」とするためには、取り組みを継続させる必要があり、継続させるにはプラットフォームが必要であること等が指摘された。

## 東京体育学会 第13回学会大会

テーマ : オリンピックとトレーニング科学  
日時 : 令和4年3月13日(日) 13:00~17:30  
場所 : 国士舘大学世田谷キャンパス MCH (メイプルセンチュリーホール)

### 大会プログラム

---

12:00~13:00 受付開始、ポスター掲示  
13:00~13:10 開会式  
13:10~14:50 **シンポジウム** オリンピックとトレーニング科学  
演者: ●杉田 正明 (日本体育大学体育学部、JOC 情報・科学サポート部門長、日本陸連・科学委員長)  
テーマ: 東京2020に向けた暑熱対策の取り組み  
●亀山 歩 (国士舘大学 空手道全日本強化コーチ)  
テーマ: 空手競技における東京2020に向けた取り組み  
●亀田 麻依 (独立行政法人 日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター)  
テーマ: パラバドミントン選手における東京2020パラリンピック競技大会までのサポート事例  
●星川 佳広 (日本女子体育大学スポーツ科学科、基礎体力研究所所長)  
テーマ: オリンピック選手のサポート活動は原著論文として認められないか?  
司会: 田中 重陽 (国士舘大学)  
15:00~15:50 ポスター発表 (2分間の口頭による概要説明)  
16:00~16:50 ポスター発表 (責任着座制)  
17:00~17:30 総会、表彰式、閉会式

---

主催: 東京体育学会  
会長: 船渡 和男 (国士舘大学)  
理事長: 田中 重陽 (国士舘大学)  
連絡先: 東京体育学会事務局 [tokyotai@kokushikan.ac.jp](mailto:tokyotai@kokushikan.ac.jp)

## 一般研究発表

### 1. バドミントンパフォーマンス分析システムの開発およびその活用方法の検討

○加藤 讓<sup>1</sup>, 須田翔大<sup>3</sup>, 佐藤美咲<sup>3</sup>, 林 直樹<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東海大学 SAC 清水教養教育センター, <sup>2</sup>仙台大学体育学部, <sup>3</sup>仙台大学体育学部学生

### 2. バドミントン・男子ダブルスにおけるロングサービスの有効性

○成田行磯<sup>1</sup>, 佐藤倅心<sup>1</sup>, 伴野匠<sup>1</sup>, 中島光人<sup>1</sup>, 須田翔大<sup>1</sup>, 林直樹<sup>2</sup>

<sup>1</sup>仙台大学体育学部学生, <sup>2</sup>仙台大学

### 3. 大学野球選手のモニタリングデータからみた試合期におけるコンディショニング課題

○光川真壽<sup>1</sup>, 勝亦陽一<sup>2</sup>, 永見智行<sup>3</sup>

<sup>1</sup>東洋学園大学, <sup>2</sup>東京農業大学, <sup>3</sup>北里大学

### 4. インサイドキックの評価基準に関するサッカー経験者と未経験中学校教師の比較

○永井健太郎<sup>1</sup>, 西垣景太<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東海大学健康学部

### 5. ハンドボール競技における助走歩数の違いがジャンプシュート動作に及ぼす影響

○諏訪芙友季<sup>1</sup>, 畑島一翔<sup>1</sup>, 横沢翔平<sup>1</sup>, 豊田賢治<sup>2</sup>, 角田直也<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国土舘大学大学院, <sup>2</sup>国土舘大学体育学部

### 6. 大学生女子バレーボール選手におけるスパイクジャンプの跳躍高に影響するバイオメカニクスの要因

○長沼舜<sup>1</sup>, 木内聖<sup>1</sup>, 尹鉉喆<sup>1</sup>, 平野智也<sup>1</sup>, 飯田周平<sup>2</sup>, 船渡和男<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国土舘大学大学院, <sup>2</sup>国土舘大学

### 7. 棒高跳指導者の指導理念に関する研究

○富沢恭子<sup>1</sup>, 森山進一郎<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京学芸大学

### 8. 陸上投擲競技者のシーズン中における体力要素と競技記録との関係

○海老原有希<sup>1</sup>, 畑島一翔<sup>1</sup>, 田中重陽<sup>2</sup>, 岡田雅次<sup>1</sup>, 角田直也<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国土舘大学大学院, <sup>2</sup>国土舘大学政経学部

### 9. 走高跳における試合展開がパフォーマンスに及ぼす影響について

○栗原理沙<sup>1</sup>, 宮内育大<sup>2</sup>, 森長正樹<sup>2</sup>, 小山裕三<sup>2</sup>

<sup>1</sup>日本大学大学院, <sup>2</sup>日本大学

10. 連続グライド動作のトレーニング手段としての有効性に関する力学的検討

○宮内育大<sup>1</sup>， 犬伏拓巳<sup>2</sup>， 岡野雄司<sup>1</sup>， 畑瀬聡<sup>1</sup>， 小山裕三<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 日本大学， <sup>2</sup> 防衛医科大学校

11. 競泳競技におけるキックスタート時の上肢動作が離台時の身体移動速度に及ぼす影響

○兵頭洋樹<sup>1</sup>， 中澤嶺<sup>2</sup>， 梅本雅之<sup>1</sup>， 和田匡史<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 国土舘大学大学院， <sup>2</sup> 国土舘大学

12. 女子大学空手選手の逆突きおよび刻み突きにおける反応時間に関する研究

－床反力及び動作分析からの検討－

○王善賜<sup>1</sup>， 木内聖<sup>1</sup>， 尹鉉喆<sup>1</sup>， 古田なつみ<sup>1</sup>， 藤戸靖則<sup>1</sup>， 平野智也<sup>1</sup>， 田中理沙<sup>1</sup>， 亀山歩<sup>1</sup>， 船渡和男<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国土舘大学大学院

13. 地下足袋タイプのシューズ着用が繰り返し動作におよぼす効果

○天野勝弘<sup>1</sup>， 宇佐美彰規<sup>2</sup>， 渡邊奈々<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 環太平洋大学スポーツ科学センター， <sup>2</sup> 株式会社丸五， <sup>3</sup> 昭和大学スポーツ運動科学研究所

14. ハムストリングに対する筋コンディショニング法の違いによる股関節可動域の変化について －静的ストレッチングと筋膜リリースの比較－

○松井咲樹<sup>1</sup>， 田島朋香<sup>1</sup>， 山嶋彩加<sup>2</sup>， 沢井史穂<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 日本女子体育大学体育学部， <sup>2</sup> 日本女子体育大学

15. 連続的筋力発揮前後における腓腹筋及びアキレス腱の活動動態

○青柳泰河<sup>1</sup>， 横沢翔平<sup>1</sup>， 海老原有希<sup>1</sup>， 田中重陽<sup>2</sup>， 岡田雅次<sup>3</sup>， 角田直也<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 国土舘大学大学院， <sup>2</sup> 国土舘大学政経学部， <sup>3</sup> 国土舘大学体育学部

16. 保育士の身体的疲労軽減を目指した運動プログラムの考案

－表面筋電図測定に基づいて－

○山下美代子<sup>1</sup>， 山嶋彩加<sup>2</sup>， 沢井史穂<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 日本女子体育大学大学院， <sup>2</sup> 日本女子体育大学

17. 東日本大震災発災以降の公園の利用に関する考察

○大橋美紅<sup>1</sup>， 福士廉<sup>1</sup>， 谷津宏輝<sup>1</sup>， 林直樹<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 仙台大学体育学部学生， <sup>2</sup> 仙台大学

18. 大学での体育・スポーツの一般教養科目での「スポーツ・コーチング」授業を受講  
生はどのように受け止めたか？

○野口智博<sup>1</sup>， 泉敏郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 日本大学文理学部， <sup>2</sup> 帝京平成大学

---

**会報「とうきょう」 2021年度 第2号**

---

発行日：2022年2月28日 編集：広報委員会

発行人：東京体育学会 会長 船渡和男

〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1

国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手室 東京体育学会事務局

e-mail:tokyotai@kokushikan.ac.jp